

現代中国語における使役構文の意味と論理構造

—その一「使構文」—

温 琳

0. はじめに

本稿の目的は形式意味論の立場から、現代中国語における「使役」構文に論理式を与えることによって、その論理構造を明らかにし、それに意味解釈を与えることである。現代中国語においては「使役」を表す構文には「使構文」と「V得構文」があるが、本稿では「使構文」を中心に考察を行う。そのために、まず「使構文」とはどのような構文であるかを明らかにする必要がある。「使構文」の範囲については従来から様々な考え方が存在し、「使構文」とは“使”が前置詞として用いられる文だけを指すという考え方もあれば、「使構文」を広義に捉え、“使”が使用されている文だけではなく、“使得”、“致使”、“令”、“叫”、“让”が用いられている文、つまり「使得」構文、「致使」構文、「令」構文、「叫」構文及び「讓」構文も「使構文」であるという考え方もある。ここでは「使構文」は「使」構文、「使得」構文、「致使」構文、「令」構文、「叫」構文及び「讓」構文の全体を指すこととする。

本稿では実例を分析することによって仮説を立証する方法を取る。具体的には、まず「使構文」に対して仮説を提起し、次にその仮説を用いて収集した例文を分析、説明することによって仮説の正しさを立証する

という方法である。以下先行研究の紹介に続いて、「使構文」を「使」構文、「使得」構文、「致使」構文、「令」構文、「叫」構文、「讓」構文の順に考察していくことにする。

1. 先行研究

1.1 呂叔湘による「使構文」に対する研究

呂叔湘氏が1942年に始めて“致使句（使役構文）”という概念を提起した。氏は“使”や“令”等の動詞が「止詞」に対して動作を起させ、或いは変化をさせる意味を持っていることから「使役」の語を提案した。「使役」構文に用いる標準的な動詞は、文語では“使”と“令”であるが、白話では“叫”と“教”等である。氏が「使役」構文の中国語文法における地位を確立し、その分析方法及び結論の一部はなお今日の研究に重大な影響を与えている。

呂叔湘氏は1980年に出版した《現代汉语八百詞》において、“使”の三番目の意味が「使役」であると述べている。そこでは「使役」を表す“使”は必ず「兼語」と一緒に使用されなければならない。例えば、“他的技术使我佩服”、“这样才能使群众满意”における“我”と“群众”が兼語である。この指摘は正しいと考える。筆者の言葉で言い換えれば、つまり“使”構文には「被使役者」が必要不可欠であるとのことである。

1.2 朱德熙（1982）による「使構文」に対する研究

朱德熙氏は《語法講義》において、“叫”と“让”には「使役」、「許可」、「委任」という意味があると述べている。例えば、“你也叫他出去磨炼磨炼”、“主席让大家安静一下”、“你让我再想想”。これら文において“叫”と“让”の目的語が動作主であり、文の主語が「使役」、「許

可」、「委任」の主体である。ここでの“叫”と“让”は動詞ではなく、前置詞として扱われている。

1.3 楊凱栄 (1989) による「使構文」に対する研究

楊凱栄氏は『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』において「使役」を表す「叫」構文、「讓」構文、「使構文」について論じている。それによれば、「中国語の使役文は「叫、讓、使」を用い、使役者が文の主語として表れ、被使役者が「叫、讓、使」の目的語であると同時に、後続する動詞の主語でもあるという構文的特徴をもっており、意味的には日本語と同様に使役者が被使役者にある動作・作用或いは状態変化をするようにしむけるという特徴を持っている。中国語においてはこのような構文は「使動句」、「兼語式」、「通繫式」など呼ばれたりする。」と述べ、例として、次の二組の文を挙げている。

- { 太郎が花子に(を)行かせる。
- { 太郎叫 (让) 花子去。
- { 医者が病人を早く回復させるために、あらゆる手を尽くした。
- { 医生想尽一切办法使病人早日康复。

また「叫、讓」と「使」の違いについては次のように述べている。「「叫、讓」と「使」は同じ使役といっても、意味的にも、また構文的にも性質を異にしている。まず、一般に被使役者が動作主 (agent) の場合、「叫、讓」は用いられるが、「使」は用いられない。次に、「使」による使役文は使役者の働きかけは使役者の意図とは関係がないが、「叫、讓」による使役文は使役者の働きかけが意図的である。第三に、「叫、讓」による働きかけは被使役者の状態変化を一つの動きとしてとらえ、その変化の過程に重きをおくのに対し、「使」による働きかけは、被使

役者の状態変化を静止したものとしてとらえ、変化の結果に重きをおく。最後に、「使」がもっともよく用いられるのは、使役者が非情物で、被使役者が有情物の場合である。」というのである。

「叫」と「讓」の違いについても、次のような考えが記述されている。「叫」と「讓」との間には、「叫、讓」と「使」の間に見られるような大きな違いはないが、多少ニュアンスの違いはある。「叫」は「言い付け、あるいは命令して、～させる」という意味が強いのに対し、「讓」は「許可して～させる」という意味が強い。」と言っている。

楊（1989）はどちらかと言うと、中国語の中で「使役」を表す前置詞、動詞、表現が如何に日本語の使役と対応するかについて研究する論文である。それに、「使役」を表す前置詞には「叫、讓、使」を挙げているが、“使得”、“令”、“致使”について言及していない。

1.4 宛新政（2005）による「使構文」に関する研究

宛新政氏は《現代汉语致使句研究》において、「三次元分析法」を用いて「使役」を表す「使構文」を分析した。三次元分析法とは、言語現象を統語論、意味論及び語用論から分析する方法である。中国で初めて「三次元分析法」を提起したのは範曉氏である。宛（2005）はその影響を深くうけ、完成された論文だと思われる。

同氏によれば、「使構文」の内部構造は“N1+sh+N2+V”で、“sh”は“使”、“使得”、“致使”、“让”、“叫”、“令”を総称する。」とし、「使構文」を「前段（N1）」、「中段（sh+N2）」、「後段（V）」に分けることができます。宛（2005）は統語論、意味論及び語用論の観点からそれぞれ「使構文」の「前段（N1）」、「中段（sh+N2）」、「後段（V）」について考察したが、その中から本発表と関連する意味論の部分について言及する。

宛（2005）にれば、「使構文」の「前段（N1）」は「使役」の原因を表し、普通一つの事件であり、「使構文」の「中段（sh+N2）」になるのは「人」がほとんどである。また、「中段（sh+N2）」は使役者が影響を与える対象であると同時に後段の述語の中心動詞と意味上密接な関係にあり、その中心動詞の動作主である。「使構文」の「後段（V）」は「使構文」の述語で、意味的には使役の「結果」を表す。

宛（2005）は「使役」の原因、「使役」の結果という用語を用いているが、「使構文」が「使役」を表すという点では筆者の考えと一致していると言えるでしょう。

2. 「使構文」の定義及び範囲

「使役」の定義に言及している学者には繆錦安、郭銳・葉向陽、範曉等がある。ここでまず彼らの「使役」に対する考えを整理してみよう。繆錦安（1990）は「もしも動作が動作主以外の参加者に変化をもたらしたら、この動作は「使役」の動作である」と定義している。郭銳・葉向陽（2001）は「使役表現は「使役」の光景を表す表現形式を指す」と解釈し、「使役」の光景は二つの特徴を持つ。それは二つ以上の出来事を含むことと二つの出来事の間に働き—効果の関係があることである」と述べている。範曉（2000）は「文法構造として使役構造は一種の客観的事実を表す。ある実体がある状態（動作行為、活動変化及び性質状態等を含む）になるのが自発的でなく、ある使役の主体の働きかけ、或いは影響を受けてそうなる場合である」と記述している。

本稿は範曉（2000）の見解に加えて、さらに「使役」を「使役者」、「遂行者」、「行為」の間の三項関係であると捉える。具体的に言えば、「使役」とは「誰かが誰かに（指示して）或る行為をするようにしむけ

る」という意味を表す文における「使役者」、「遂行者」、「行為」の間の三項関係であると考ええる。例えば、“妈妈让小明去买菜”において、「使役者」は“妈妈”、「遂行者」は“小明”、「行為」は“(小明) 去买菜”となる。“妈妈让小明去买菜”は「使役者」である“妈妈”が「遂行者」である“小明”に（指示して），“去买菜”という「行為」をするようにしむける、つまり「使役」の意味を表している。

「使構文」について論じる前に、まず「使構文」の範囲を定めよう。なぜなら、「使構文」の範囲について従来様々な考え方が存在するからである。「使構文」とは“使”が前置詞として用いられる文だけを指すという考え方もある一方、「使構文」を広義に捉え、“使”が使用されている文だけではなく、“使得”、“致使”、“令”、“叫”、“让”が用いられている文も「使構文」であるという考え方もある¹⁾。本稿では「使構文」の全体を考察するために「使構文」を広義に捉える。つまり「使構文」は“使”、“使得”、“致使”、“令”、“叫”、“让”等を用いた文であると考ええる。それぞれ「使」構文、「使得」構文、「致使」構文、「令」構文、「叫」構文及び「讓」構文と称する。そのほかに、「使…被」構文、「使…把」構文、「使…得」構文がある。これらの構文も「使構文²⁾」として取り扱い、それを「特殊な「使構文」と呼ぶことにする。従って、「使構文」の範囲を図示すると、次の図1になる。しかし、「特殊な使構文」の分析には「把構文」及び「被構文」に関する研究が必要であり、本稿の理論だけではまだ「特殊な使構文」を取り扱うことができない。従って本稿における研究対象は「使」構文、「使得」構文、「致使」構文、「令」構文、「叫」構文及び「讓」構文とする³⁾。

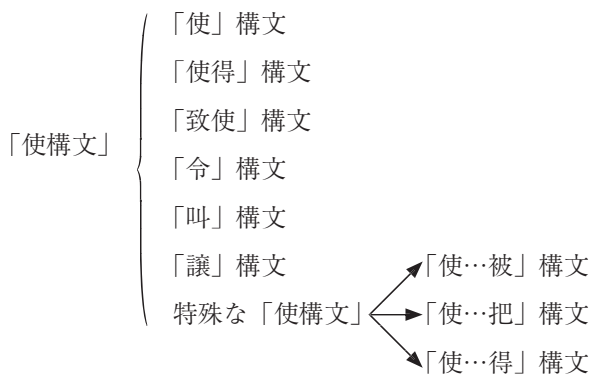


図 1.

3. 「使構文」の論理構造

上述の2の部分で本稿が扱う「使構文」の範囲を定めた。以下順に分析するが、その前にまず我々の「使構文」に対する仮説を提示しておく。次の例文1を分析しながら論を展開する。

1. 她的声音使我蓦然产生无比的恐惧。(宛新政 2005:69 引用例)
 (彼女の声が突然私に限りない恐怖を覚えさせた。)(筆者訳)

分析を分りやすくするために例文1を簡略化すると、次のようになる。

- 1-1. 声音使我产生恐惧。
 (声が私に恐怖を覚えさせた。)

ここで文1-1に含まれている命題内容を並べてみよう。「私が恐怖を

覚える」と「声が私にさせた」と「声が私に私が恐怖を覚えることをさせた」という三個である。「声が私に私が恐怖を覚えることをさせた」という命題が文 1-1 が表す意味であると考え。この章の目的はすべての「使役」を表す「使」構文に共通する規則を抽出することである。「使構文」に共通する規則を見つけるために、ここで命題内容「声が私に私が恐怖を覚えることをさせた」において、例文 1-1 に関わる具体的な要素、つまり「個体」と「命題」を除いてみると次のような意味構造が抽出できる。

1-2. $\sim$ ガ $\sim$ ニ $\sim$ コトヲ サセル

ここではメタ言語として述語論理を採用し、1-2 の意味構造を述語論理のデータ構造と対応させて、論理式を書くと、次のようになる。

1-3. サセル' ($\sim$ ガ, $\sim$ ニ, $\sim$ コトヲ)

論理式 1-3 を観察すると、一種の関数を表していることに気付く。筆者はここで一つの仮説を提起したい。それは中国語の「使構文」は三個の項を持つ関数であるということである。この仮説をもとに、上記 1-3 は次のように書き換えることができる。

1-4. サセル' (α , β , γ)

ここで 1-4 を中国語を用いて表記すると、次のようになる。

1-5. 使' (α , β , γ)

ここで説明しなければならないのは「使'」という記述方法である。これは中国語の漢字「使」の右上にプライム「'」を付したものである。これは論理式 1-5 において関数の表記に用いられている。形式意味論の研究においては関数表記に使用される記号はすべてローマ字（例えば、Shi' など語頭のみ大文字のもの）でなければならないが、本稿では便宜的に中国語の漢字を用いることにした。

以上の議論を踏まえて、改めて例文 1-1 を見てみよう。例文 1-1 は「私が恐怖を覚える」と「声が私にさせた」と「声が私に私が恐怖を覚えることをさせた」という三つの命題内容を含んでいる。従って文 1-1 の述語論理表記は次のようになる。なお論理式の下のカタカナ表記はデータ構造（論理式）に対応する意味制約の表示である（以下同様）。

1-1' 使' {声音, 我, 产生' (我, 恐惧)}
 サセル' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここでは“产生' (我, 恐惧)”が「私が恐怖を覚える」の意を、“使' {声音, 我}”が「声が私にさせた」の意を、“使' ”関数の値である“使' {声音, 我, 产生' (我, 恐惧)}”が「声が、私に、私が恐怖を覚えることを、させた」という意味を表している。

ここで「声が、私に、私が恐怖を覚えることを、させた」という表現をより自然な日本語で記述すると、「声が私に恐怖を覚えさせた」という表現となる。これが文 1-1 の表す意味である。

以上の分析方法を用いてあらゆる「使構文」に意味解釈を与えることができれば、筆者の仮説を立証できることになる。以下順番に検証していく。

4. 実例による検証

以下実例を用いて、「使」構文、「使得」構文、「致使」構文、「令」構文、「叫」構文、そして最後に「讓」構文の順に議論を進めていくことにする。

4.1 「使」構文

まず「使」構文について述べるが、「使」構文を分析する前に中国語の“使”について説明しておく。呂叔湘（1980）によれば、現代中国語において、“使”は動詞であり、主に三つの意味を表す。一つは「使いにやる、差し向ける」という意味である。例えば、“使人去打听消息。（人をやって消息を探らせる。）”である。二つ目は「使う、使用する」という意味である。例えば、“剪刀我正使着呢。（はさみはいま使っている。）”である。三つ目は「…に…させる」という意味である。例えば、“一个虎妞已足使任何人怕女子、又舍不得女子。（全ての人に女を恐れさせ、また恋しく思わせるには虎娘一人で十分だった。）”である。“使”の三番目の意味が「使役」である。この節では「使役」を表す“使”が用いられる文、つまり「使」構文だけを取り上げる。以下いくつか例を見てみよう。

2. 后悔使他对一切都冷淡了些, 干吗故意找不自在呢? (老舍《骆驼祥子》)
 (後悔が彼を何事につけても冷淡にさせた。なんでこんなバカなまねをしたんだ。)⁴⁾

例文2の「使役」の分析に不要な部分を取り除くと、次の文2-1にな

る。

2-1. 後悔使他对一切冷淡。

(後悔が彼を何事につけても冷淡にさせた。)

文 2-1 は「彼は何事につけても冷淡だ」と「後悔が彼にさせた」と「後悔が、彼に、彼が何事につけても冷淡であることを、させた」という三つの命題内容を含んでいる。従って文 2-1 の論理式を示すと次のようになる。

2-1' 使' 後悔, 他, 冷淡' (他, 一切){

サセル' ~ガ ~ニ ~コトラ

ここでは“冷淡' (他, 一切)”が「彼は何事につけても冷淡だ」の意を、“使' 後悔, 他”が「後悔が彼にさせた」の意を、“使' ”関数の値である“使' 後悔, 他, 冷淡' (他, 一切){”が「後悔が、彼に、彼が何事につけても冷淡であることを、させた」という意味を表している。

ここでは「後悔が彼に彼が何事につけても冷淡であることをさせた」という表現は「後悔が彼を何事につけても冷淡にさせた」という意味を表していると考える。これが文 2-1 の表す意味である。

3. 在晴朗无风的时候, 天气虽是干冷, 可是路旁增多了颜色: 年画、纱灯、红素蜡烛、绢制的头花、大小蜜供、都陈列出来, 使人心中显着快活, 可又有点不安; 因为无论谁对年节都想到快乐几天, 可是大小也都有些困难。(老舍《骆驼祥子》)

(よく晴れた風もない日などには、寒いことは寒かったが、道端がに

わかには賑やかになった。正月用の壁絵や絹提燈、赤や白の蠟燭、造花の髪飾り、大小のお供えのお菓子などの店がずらりと並んで、人々の心をときめかせたり、いささか不安にもする。正月というものは誰にも楽しいものには違いないが、またそれなりの苦労もあるものだ。)

例文3の「使役」と直接かかわる部分は次の文3-1になる。

3-1. 颜色使人快活。

(色が人を楽しくさせる。)

文3-1は「人が楽しい」と「色が人にさせた」と「色が、人に、人が楽しいことを、させた」という三個の命題内容を含んでいる。従って文3-1の論理式を示すと、次のようになる。

3-1' 使' {颜色, 人, 快活' (人)}

サセル' ~ガ~ニ ~コトラ

ここでは“快活' (人)”が「人が楽しい」の意を、“使' {颜色, 人”が「色が人にさせた」の意を、“使' ”関数の値である“使' {颜色, 人, 快活' (人)}”が「色が、人に、人が楽しいことを、させた」という意味を表している。

ここでは「色が、人に、人が楽しいことを、させた」という表現をより自然な表現に書き換えると「色が人を楽しくさせる」となる。これが文3-1の表す意味である。

4.2 「使得」構文

前節では2と3の文によって「使」構文について論じたが、次に「使得」構文を見てみよう。

4. 她为他治好了眼睛。也许，就在她认真细巧的治疗中，唤起了他的另一种感情。这种感情蔓延着，燃烧着，使得他们两人的生活都改变了。

(滢蓉《人到中年》)

(彼女が彼に目を治してくれた。だが彼女の仕事に対する熱心さが、かえって彼の情熱に火をつけたかもしれない。そうした感情が燃えて、蔓延して、彼ら二人の生活を変えてしまったのだろう。)

例文 4 の「使役」の分析に不要な部分を取り除くと、次の文 4-1 になる。

- 4-1. 感情蔓延着, 燃烧着, 使得生活改变了。

(感情が燃えて、蔓延して、生活を変わらせた。)

4-1の文は「感情が燃える」と「感情が蔓延する」と「感情が燃えて、蔓延する」と「生活が変わる」と「感情が燃えて、蔓延することが生活にさせた」と「感情が燃えて、蔓延することが、生活に、生活が変わることを、させた」という六つの命題内容を含んでいる。従って、文4-1の論理式は次のようになる。

- サセル' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここで“燃烧’（感情）”が「感情が燃える」の意を、“蔓延’（感情）”が「感情が蔓延する」の意を、“蔓延’（感情）&燃烧’（感情）”が「感情が燃えて、蔓延する」の意を、“改变’（生活）”が「生活が変わる」の意を、“使得’ {蔓延’（感情）&燃烧’（感情），生活}”が「感情が燃えて、蔓延することが生活にさせた」の意を、“使得’”関数の値である“使得’ {蔓延’（感情）&燃烧’（感情），生活，改变’（生活）}”が「感情が燃えて、蔓延することが、生活に、生活が変わることを、させた」という意味を表している。

ここでは“使得’”関数の第一項に“蔓延’（感情）”という関数の値と“燃烧’（感情）”という関数の値の連言が入っている。それは「感情が燃える」ことと「感情が蔓延する」ことが同時に発生していることを表す。つまり、「感情が燃えて、蔓延する」ということである。

ここでは「感情が燃えて、蔓延することが、生活に、生活が変わることを、させた」という日常言語としてやや不自然な日本語の表現を用いたが、それはあくまでも例文の説明を分りやすくするために使用した表現である。それを自然な日本語に書き直すと、「感情が燃えて、蔓延して、生活を変わらせた」という文になる。これが文 4-1 が表す意味である。

5. 多好啊，生活！ 多美啊，爱情！ 这久远的往事重现在脑际，使得垂危中的她似乎有了生的活力，她的眼睛微微启开了一下。（湛蓉《人到中年》）

（楽しい人生！ 美しい愛情！ 今は遠い昔のこととなった出来事が脳裏に再現して、今まさに消えようとする彼女に生きる活力を与えたのだろうか、彼女の目がかすかに開けられようとしていた。）

例文5の「使役」と直接関わる部分は次の文5-1である。

5-1. 往事重现使得她有了活力。

(昔の事がよみがえり、彼女に活力を湧かせた。)

5-1の文は「昔の事がよみがえる」と「彼女が活力が湧く」と「昔の事がよみがえることが彼女にさせた」と「昔の事がよみがえることが、彼女に、彼女が活力が湧くことを、させた」という四個の命題内容を含んでいる。従って、文5-1の論理式は次のようになる。

5-1' 使得' {重现' (往事), 她, 有' (她, 活力)}

サセル' ～ガ～ニ ～コトラ

ここで“重现' (往事)”が「昔の事がよみがえる」の意を、“有' (她, 活力)”が「彼女は活力が湧く」の意を、“使得' {重现' (往事), 她”が「昔の事がよみがえることが彼女にさせた」の意を、“使得' ”関数の値である“使得' {重现' (往事), 她, 有' (她, 活力)}”が「昔の事がよみがえることが、彼女に、彼女が活力が湧くことを、させた」という意味を表している。

ここでは「昔の事がよみがえることが、彼女に、彼女が活力が湧くことを、させた」という文は論理式5-1' に合わせて解釈した表現である。それを自然な表現に直すと「昔の事がよみがえり、彼女に活力を湧かせた」という文になる。これが5-1の文の表す意味である。

4.3 「致使」構文

前節の4と5の文は「使得」構文の例であった。ここでは「致使」構

ここでは「劉西定が革命を裏切ることが、誰かに、誰かが第二縦隊を失うことを、させた」という表現を自然な表現に置き換えると、「劉西定が革命を裏切り、(誰かに)第二縦隊を失わせた」となる。さらに、ここで文 6-1 に戻ると、「誰か」を指す具体的な語彙が文中に現われていないため、「劉西定が革命を裏切り、誰かに第二縦隊を失わせた」という文から「誰か」という要素を省いて、「劉西定が革命を裏切り、第二縦隊を失わせた」となる。これが 6-1 の文の表す意味である。

7. 主观盲目地制定计划, 执行起来和实际情况有很大的差距。致使经费预算常常突破。(宛新政 2005: 108 引用例)

(主観的に計画を企てると、実行する際には実際の状況とかなりの隔たりが生じるため、経費の予算がいつもオーバーすることになる。)

(筆者訳)

例文 7 の「使役」の分析に不用な部分を取り除くと、次の文 7-1 になる。

7-1. 制定计划致使预算突破。

(計画を企てることが予算をオーバーさせた。)

文 7-1 は「誰かが計画を企てる」と「予算がオーバーする」と「誰かが計画を企てることが予算にさせた」と「誰かが計画を企てることが、予算に、予算がオーバーすることを、させた」という四個の命題内容を含んでいる。従って文 7-1 の論理式は次の 7-1' のように記述できる。

7-1' 致使' {制定' (Φ^6 , 计划), 预算, 突破' (预算)}
 サセル' ～ガ ～ニ ～コトラ

ここでは“制定' (Φ , 计划)”が「誰かが計画を企てる」の意を、“突破' (预算)”が「予算がオーバーする」の意を、“致使' {制定' (Φ , 计划), 预算}”が「誰かが計画を企てることが予算にさせた」の意を、“致使' ”関数の値である“致使' {制定' (Φ , 计划), 预算, 突破' (预算)}”が「誰かが計画を企てることが、予算に、予算がオーバーすることを、させた」という意味を表している。

ここでは「誰かが計画を企てることが、予算に、予算がオーバーすることを、させた」という表現は「誰かが計画を企てることが予算をオーバーさせた」ということを意味する。これが文 7-1 の表す意味である。

4.4 「令」構文

以上 6 と 7 の例の分析において「致使」構文について論じたが、次に「令」構文を見てみよう。

8. 街上仿佛已没了人，道路好像忽然加宽了许多，空旷而没有一点凉气，白花花的令人害怕。(老舍《骆驼祥子》)
- (街の人影は消え、通りはにわかに広がった感じで、がらんとして無性に暑く恐ろしいまでにギラギラしていた。)

例文 8 の「使役」と直接かかわる部分は次の文 8-1 である。

- 8-1. 道路令人害怕。
- (通りが人に怖がらせた。)

文 8-1 は「人が怖がる」と「通りが人にさせた」と「通りが、人に、人が怖がることを、させた」という三つの命題内容を含んでいる。従って文 8-1 の論理式は次のようになる。

8-1' 令' {道路, 人, 害怕' (人)}

サセル' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここで“害怕' (人)”が「人が怖がる」の意を、“令' {道路, 人} が「通りが人にさせた」の意を、“令' ”関数の値である“令' {道路, 人, 害怕' (人)}”が「通りが、人に、人が怖がることを、させた」という意味を表している。

この「通りが、人に、人が怖がることを、させた」という、意味は理解できるが、日常言語としては使わない日本語は「通りが人を怖がらせた」を意味している。これが文 8-1 の表す意味である。

9. 张小姐弹完，鸿渐要补救这她误解的笑容，抢先第一个称“好”，求她再弹一曲。(钱钟书《围城》)

(張お嬢さんが弾き終わった時、鴻漸は自分の笑みが招いた誤解を解くため、先を争って「すばらしい」と褒め、彼女にもう一曲披露するよう頼んだ。)

例文 9 の「使役」と直接かかわる部分は次の文 9-1 である。

- 9-1. 鸿渐补救这她误解的笑容

(鴻漸は彼女に誤解をさせた笑みをなんとかしたい)

文 9-1 を観察すると、この文はまた 9-2. “鴻漸补救笑容” と 9-3. “令 她误解的笑容” に細分化できることに気付く。ここで文 9-1 を分析するのにまず 9-2. “鴻漸补救笑容” と 9-3. “令 她误解的笑容” を分析して、その後に文 9-1 を論じる方法を採用する。

まず 9-2. “鴻漸补救笑容” を論理表記してみよう。

9-2. 鴻漸补救笑容

9-2 は「鴻漸が笑みをなんとかしたい」という一つの命題内容しか含んでいないため、9-2 の論理式は次のように示すことができる。

9-2' 补救' (鴻漸, 笑容)

次に 9-3. “令 她误解的笑容” の論理式を記して見よう。

まず 9-3. “令 她误解的笑容” に含まれている命題内容を明らかにする。“令 她误解的笑容” は「彼女が誤解をする」と「笑みが彼女にさせた」と「笑みが、彼女に、彼女が誤解をすることを、させた」という三個の命題内容を含んでいる。従って述語論理で表記すると、次の 9-3' になる。

9-3' 令' {笑容, 她, 误解' (她)}

サセル' ～ガ～ニ ～コトラ

ここでは“误解' (她)”が「彼女が誤解をする」の意を、“令' {笑容, 她”が「笑みが彼女にさせた」の意を、“令' {笑容, 她, 误解' (她)}”

が「笑みが、彼女に、彼女が誤解をすることを、させた」という意味を表している。

「笑みが、彼女に、彼女が誤解をすることを、させた」という表現を自然な日本語で記述すると、「笑みが彼女に誤解をさせた」という表現になる。さらに、9-3. “令她误解的笑容” においては“令她误解(的)”が“笑容”を連体修飾しているため、前述の「笑みが彼女に誤解をさせた」という表現も「連体修飾語」+「名詞」の形式に変えると、「彼女に誤解をさせた笑み」のようになる。

以上の議論を踏まえ、改めて9-1を論理式で記述してみよう。

9-1' 补救' (鸿渐, 笑容) & 令' {笑容, 她, 误解' (她)}

サセル' ～ガ～ニ ～コトラ

ここでは“补救' (鸿渐, 笑容)”が「鴻漸が笑みをなんとかしたい」の意を表す。“令' {笑容, 她, 误解' (她)}”は「彼女に誤解をさせた笑み」の意を表すことはすでに述べた通りである。さらに、連言(&)の前の関数の値の二番目の項がその後ろの関数の一番目の項と同じである。つまり、関数“补救' (鸿渐, 笑容)”の二番目の項である“笑容”が関数“令' {笑容, 她, 误解' (她)}”の一番目の項である“笑容”と同じである。従って、命題内容「鴻漸が笑みをなんとかしたい」の「笑み」と「彼女に誤解をさせた笑み」の「笑み」が同じであることになる。それによって、“补救' (鸿渐, 笑容) & 令' {笑容, 她, 误解' (她)}”が「鴻漸は彼女に誤解をさせた笑みをなんとかしたい」という意味を表すに至るのである。これが文9-1. “鸿渐补救令她误解的笑容”の表す意味である。

4.5 「叫」構文

4.4では用例8、9を用いて「令」構文を分析したが、次に「叫」構文を見てみよう。

10. 对于调动骆驼的口号，祥子只晓得“色……”是表示跪下；他很得意的应用出来，特意叫村民们明白他并非是外行。（老舍《骆驼祥子》）
 （祥子はこの駱駝を座らせる「しっ」という掛け声しか知らなかったのだが、村人たちの前で本職らしく見せようと思って、ことさらに使ってみたのだ。）

例文10の「使役」の分析に直接関わる部分は次の文10-1である。

- 10-1. 他叫村民明白他并非是外行。

（彼は村人に自分が素人ではないと分らせた。）

10-1の文は「村人は彼がわかる」と「彼は素人ではない」と「村人は彼が素人ではないとわかる」と「彼が村人にさせた」と「彼が、村人に、村人は彼が素人ではないとわかることを、させた」という五個の命題内容を含んでいる。従って、文10-1の論理式は次のようになる。

- 10-1' 叫' {他, 村民, 明白' (村民, 他) & ~是' (他, 外行)}

サセル' ~ガ~ニ

~コトラ

ここでは“明白' (村民, 他)”が「村人は彼がわかる」の意を、“~是' (他, 外行)”が「彼は素人ではない」の意を、“明白' (村民, 他) & ~是' (他, 外行)”が「村人は彼が素人ではないとわかる」の意を、

“叫’ {他, 村民” が「彼が村人にさせた」の意を、“叫’ ” 関数の値である “叫’ {他, 村民, 明白’ (村民, 他) & ~是’ (他, 外行)}” が「彼が、村人に、村人は彼が素人ではないとわかることを、させた」という意味を表している。

ここでは「彼が、村人に、村人は彼が素人ではないとわかることを、させた」という表現をより自然な日本語で記述すると、「彼は村人に自分が素人ではないと分らせた」という表現になる。これが 10-1 の文の表す意味である。

11. 冯先生马上过来看了看, 叫祥子去买两份红帐本, 和一张顺红笺。

(老舍《骆驼祥子》)

(馮さんがさっそくやってきて会場を見回ったあと、祥子に祝儀用の帳面を二冊と同じく祝儀用の赤紙を一枚買ってこさせた。)

例文 11 の「使役」の分析に不用な部分を取り除くと、次の文 11-1 になる。

11-1. 冯先生叫祥子去买帐本和顺红笺。

(馮さんが祥子に帳面と赤紙を買いに行かせた。)

文 11-1 は「祥子が行く」と「祥子が帳面と赤紙を買う」と「祥子が帳面と赤紙を買いに行く」と「馮さんが祥子にさせた」と「馮さんが、祥子に、祥子が帳面と赤紙を買いに行くことを、させた」という五つの命題内容を含んでいる。従って、文 11-1 の論理式は次のようになる。

- 11-1' 叫' {冯先生, 祥子, 去' (祥子) & 买' (祥子, 帐本&顺红笺⁷⁾ }
 サセル' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここでは“去' (祥子)”が「祥子が行く」の意を、“买' (祥子, 帳本 & 顺红笺)”が「祥子が帳面と赤紙を買う」の意を、“去' (祥子) & 买' (祥子, 帳本 & 顺红笺)”が「祥子が帳面と赤紙を買いに行く」の意を、“叫' {冯先生, 祥子}”が「馮さんが祥子にさせた」の意を、“叫' ”関数の値である“叫' {冯先生, 祥子, 去' (祥子) & 买' (祥子, 帳本 & 顺红笺)}”が「馮さんが、祥子に、祥子が帳面と赤紙を買いに行くことを、させた」という意味を表している。

ここで「馮さんが、祥子に、祥子が帳面と赤紙を買いに行くことを、させた」という表現を分り易く記述すると、「馮さんが祥子に帳面と赤紙を買いに行かせた」という表現になる。これが 11-1 の文の表す意味である。

4.6 「譲」構文

前節の用例 10、11 では「叫」構文を論じたが、最後に「譲」構文を見てみよう。

12. 夏太太倒常出去，可是总是在四点左右就回来，好让祥子去接夏先生。
 (老舍《骆驼祥子》)
 (夏奥さんは逆によく出かけるが、いつも四時頃には帰り、祥子を夏旦那さんの迎えに行かせる。)

例文 12 の直接「使役」の分析にかかわる部分は次の文 12-1 である。

12-1. 夏太太让祥子去接夏先生。

(夏奥さんが祥子を夏旦那さんの迎えに行かせる。)

文 12-1 は「祥子が行く」と「祥子が旦那さんを迎える」と「祥子が旦那さんを迎えに行く」と「夏奥さんが祥子にさせる」と「夏奥さんが、祥子に、祥子が旦那さんを迎えにいくことを、させる」という五つの命題内容を含んでいる。従って、文 12-1 の論理式は次のように記述することができる。

12-1' 让' {夏太太, 祥子, 去' (祥子) & 接' (祥子, 夏先生)}
 サセル' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここでは“去' (祥子)”が「祥子が行く」の意を、“接' (祥子, 夏先生)”が「祥子が旦那さんを迎える」の意を、“去' (祥子) & 接' (祥子, 夏先生)”が「祥子が旦那さんを迎えに行く」の意を、“让' {夏太太, 祥子}”が「夏奥さんが祥子にさせる」の意を、“让'”関数の値である“让' {夏太太, 祥子, 去' (祥子) & 接' (祥子, 夏先生)}”が「夏奥さんが、祥子に、祥子が旦那さんを迎えにいくことを、させる」という意味を表している。

ここで「夏奥さんが、祥子に、祥子が旦那さんを迎えにいくことを、させる」という表現を自然な日本語に直すと「夏奥さんが祥子を夏旦那さんの迎えに行かせる」という文になる。これが文 12-1 の表す意味である。

13. 苏小姐理想的自己是：“艳如桃李，冷若冰霜”，让方鸿渐卑逊地仰慕而后屈伏地求爱。(钱钟书《围城》)

(蘇お嬢さんが描く理想の自分は「桃やスモモの花のようにあでやかだが、氷のように冷たい」であり、これは方鴻漸をつつましやかに敬慕させ、そして彼に頭を下げて求愛させるのだ。)

例文 13 の「使役」の分析と直接かかわる部分は次の文 13-1 である。

13-1. 苏小姐让方鸿渐仰慕。

(蘇お嬢さんが方鴻漸に敬慕させた。)

文 13-1 は「方鴻漸が蘇お嬢さんを敬慕する」と「蘇お嬢さんが方鴻漸にさせた」と「蘇お嬢さんが、方鴻漸に、方鴻漸が蘇お嬢さんを敬慕することを、させた」という三個の命題内容を含んでいる。従って、文 13-1 の論理式は次のようになる。

13-1' 让' {苏小姐, 方鸿渐, 仰慕' (方鸿渐, 苏小姐)}

サセル' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここで“仰慕' (方鴻漸, 苏小姐)”が「方鴻漸が蘇お嬢さんを敬慕する」の意を、“让' {苏小姐, 方鴻漸}”が「蘇お嬢さんが方鴻漸にさせた」の意を、“让' ”関数の値である“让' {苏小姐, 方鴻漸, 仰慕' (方鴻漸, 苏小姐)}”が「蘇お嬢さんが、方鴻漸に、方鴻漸が蘇お嬢さんを敬慕することを、させた」という意味を表している。

ここで「蘇お嬢さんが、方鴻漸に、方鴻漸が蘇お嬢さんを敬慕することを、させた」という、意味は理解できるが日常言語として使えない表現は「蘇お嬢さんが方鴻漸に敬慕させた」という意味を表している。これが文 13-1 の表す意味である。

以上例文 12 と 13 では「譲」構文を論じた。

5. 結びにかえて

これまで「使」構文、「使得」構文、「致使」構文、「令」構文、「叫」構文及び「譲」構文について一通り考察した。考察のプロセスが示しているのは、筆者の提案、つまり「使構文」を三個の項を持つ関数と見なし、「サセル’（～ガ，～ニ，～コトヲ）」という論理構造に基づいて「使構文」に意味解釈を与えることが妥当であることである。また、「使構文」において、「使」構文、「使得」構文、「致使」構文、「令」構文、「叫」構文及び「譲」構文はこの構文のプロトタイプと考えられるから、本稿は少なくともプロトタイプの「使構文」が三つの項を持つ関数であり、「サセル’（～ガ，～ニ，～コトヲ）」という論理構造に基づいて意味解釈を与えられることを証明していると言える。

6. 注釈

- 1) 現代中国語における「使役」構文を本稿とは異なる考えから捉える学者もいる。ここではその例として熊仲儒氏をあげたい。熊（2004）は連動式、動結式、「得」構文、「把」構文、二重目的語文及び与格文を現代中国語の「使役」構文として扱っている。本研究では「使役」構文を「使」などの前置詞を用いる文だけに限定するが、熊（2004）はなぜ前述のように「使役」構文を捉えたのかについても考えてみる必要がある。

英文法においては、「使役動詞」を分析的使役動詞、語彙的使役動詞、形態的使役動詞の三類に分ける考えがある。それぞれ例を挙げながら見ていこう。

(1) 分析的使役動詞

I made him drive the car.

我让他开车。

例文を見て分るように、「made」が分析的使役動詞である。「drive」は「運転する」の意

で、「運転させる」の「させる」の部分の意味が“made”で表現されているために、分析的使役動詞と呼ばれている。本稿で扱う現代中国語の「使役」構文はこのタイプの構文である。

(2) 語彙的使役動詞

He opened the box.

他打开箱子。

The driver stopped the car.

司机停了车。

語彙的使役動詞は、分析的使役動詞と異なり、語彙そのものが「使役」の意を表す。上の例文に用いられている「open」にせよ「stop」にせよ単語そのものが「使役」の意を表している。

(3) 形態的使役動詞

Bolt brightened (=made bright) the ground.

闪电照亮了大地。

She humidified (=made humid) the handkerchief.

她哭湿了手帕。

形態的使役動詞とは、一定の形態的特徴によって、「使役」を表す動詞を指す。中国語と異なって、英語は形態変化のある言語である。単語の語頭或いは語尾に接頭語或いは接尾辞を付け加えることによってもとの単語と異なる意味を表したり、より広い意味を派生したりする。「使役」もその派生される意味の一つである。

以上の考察から分るように、本稿で扱う「使役」構文は上記 (1) のタイプ、つまり分析的使役動詞の用いられる構文であり、熊 (2004) が扱う「使役」構文は上記のタイプ (2) 及びタイプ (3)、つまり語彙的使役動詞、形態的使役動詞の用いられる構文である。

- 2) ここでの「使」は“使”、“使得”、“致使”、“令”、“叫”、“让”の全体を指す。
- 3) 「特殊な使構文」に関しては「使構文」その二で議論する予定である。
- 4) 本稿の用例の出所については各用例の後ろに「()」を用いて示している。用例の日本語訳については筆者が訳したものには「筆者訳」として示しており、何もしない日本語訳は北京日本学研究中心の日中対訳コーパスから引用したものである。
- 5) 「誰か」という「不確定」の意を有する定項を表す記号である。例文6において「誰か」をはっきり指示する語が現われていないため、論理式においては記号「Φ」を用いて記述する。
- 6) 「誰か」という「不確定」の意を有する定項を表す記号である。例文7においては「誰か」をはっきり指示する語が現われていないため、論理式においては記号「Φ」を用いて記述する。

る。

- 7) “帳本&順紅箋”は“帳本”と“順紅箋”を別の項として論理式を書くべきであるが、ここでは便宜的に“帳本&順紅箋”と表記した。

7. 参考文献

- 方立、2000、『邏輯語義学』、北京語言文化大学出版社
- 傅雨賢、2006、『語法・方言探微』、広東高等教育出版社
- 郡司隆男、1987、『自然言語の文法理論』、産業図書
- 何英玉、2005、『語義学』、上海外語教育出版社
- 賈彦德、2005、『漢語語義学』、北京大学出版社
- 蔣巖・潘海華、1998、『形式語義学引論』、中国社会科学出版社
- 李臨定、1986、『現代漢語句型』、商務印書館
- 李臨定、1988、『漢語比較變換語法』、中国社会科学出版社
- 劉月華等、1983、『實用現代漢語語法』、外語教学与研究出版社
- 呂叔湘、1980、『現代漢語八百詞』、商務印書館
- 呂叔湘、1982、『中国文法要略』、商務印書館
- 馬清華、2006、『語義的多維研究』、語文出版社
- 丸田忠雄、1998、『使役動詞のアナトミー 語彙的使役動詞の語彙概念構造』、松柏社
- L・ウィトゲンシュタイン、2005、『論理哲学論考』（野矢茂樹訳）、岩波書店
- 松村文芳、2005、『「把構文」と「被構文」に用いられる「給」の意味と論理』、『語学教育研究論叢第22号』、大東文化大学語学教育研究所
- 木村英樹、2000、『中国語ヴォイスの構造化とカテゴリー化』、『中国語学』、No. 247, pp. 19-39
- 繆錦安、1990、『漢語的語義結構和補語形式』、上海外語教育出版社
- 野矢茂樹、2006、『ウィトゲンシュタイン 「論理哲学論考」を読む』、筑摩書房
- アイバン・A・サグ、トーマス・ワソー、2001、『統語論入門：形式的アプローチ』（郡司隆男、原田康也訳）、岩波書店
- 沈家煊、1995、『“有界”与“無界”』、『中国語文』、第五期
- 沈家煊、2000、『句式与配価』、『中国語文』、第四期
- 白井賢一郎、1985、『形式意味論入門—言語・論理・認知の世界—』、産業図書

- 宛新政、2005、『現代漢語致使句研究』、浙江大学出版社
- 熊仲儒、2004、『現代漢語中的致使句式』、安徽大学出版社
- 楊凱榮、1989、『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』、くろしお出版
- 周紅、2005、『現代漢語致使範疇研究』、復旦大学出版社
- 朱德熙、1980、『現代漢語語法研究』、商務印書館
- 朱德熙、1982、『語法講義』、商務印書館